

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475102307		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホーム高野原	ユニット名	A棟
所在地	仙台市青葉区高野原4丁目12-29		
自己評価作成日	平成23年 2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居されている方が、安心して笑顔で暮らせるよう最後までサポートしています。ご家族とご本人の絆が強まるよう心がけています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年3月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(有)さくらの運営であり2006年の開設である。最寄のバス停から徒歩3分で駐車場も広い。法人として設立当初からサービス業であるとの認識をもち、新人研修に当たっても職員一人ひとりに意識づけている。「その人らしく尊厳のある生活の提供、地域に根ざし人々と共に楽しく安らぎのある生活への支援…」を理念とし入居者家族、地域の人々と連携、協力し入居者一人ひとりにとって落ち着いて暮らせる第2のホームとなるように支援している。特に「重度化、」「看取り」での支援は開設時から行っており医療との連携も得て実績を重ね、職員の不安も少ない。入居者、家族をサポートしパイプ役として絆を深めたいと管理者は話してくれた。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム さくら高野原** )「ユニット名 **A棟** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については職員及び管理者が話し合いを持ってつくりあげたので、内容を職員は理解している。日々の申し送りや月1回のカンファレンスを通じ確認している。また、理念は事務室及び玄関に掲示し家族や来客にも公表している。	開設時「その人らしく尊厳のある生活の提供」を全員で作成した。毎年検討を重ね21年度には「地域に根ざし、地域の人々と共に…」を付加している。幸せはそれぞれ違う事を共有し日々のケアを振り返り支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域や学校の行事などに招待された場合は積極的に参加している。また近隣は商店が少ないのでホームの駐車場で週1回移動販売の八百屋さんを誘致したり、年2回フリーマーケットを開催したり近所の皆さんが買い物でホールに立ち寄ってもらえるようにしている。	町内会行事の「ホットサロン」での作品づくりや触れ合いフェスティバルにも出掛けている。実習生の受け入れや小学生の体験受け入れ、老人会による施設見学の後は継続して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして、サポーター養成講座の講師を引き受け研修を通して、地域の皆さんに浸透するよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に、1回の運営推進会議ではホーム内の様子をお伝えすると共に様々な情報を提供していただき、次のサービス等に反映させている。	会議を年6回開催し、包括支援センターからも毎回参加している。ブルーベリー摘み、ジャガイモ掘り等に誘われたり、支援センター職員から入居者見守りでの「飲料」「新聞配達」との連携提案なども検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や質問等、あった時には連絡し、常に早めの問題解決を心掛けている。	監査指導が年に1回あり重要事項説明書の壁面への掲示も指導された。介護相談員も毎月受け入れ入居者との交歓も見られる。管理者は「キャラバンメイト」として講師依頼があり、地域への啓蒙、相談に応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスなどの機会に、話し合いの中で確認し常に注意を払って取り組んでいる。外部の研修に参加し、内部の研修に反映させるなど。	「身体拘束はしない」を共有し車椅子使用時のずり落ちも職員はマット等で工夫している。研修の機会を逃さず参加し、その後全員で共有している。外出の気配を見逃さず、出る前に玄関先で「お帰りなさい」と声掛けする事で落ち付くこともあった職員は話していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の研修を実施し、認識を新たにしていく。また、業務にあたっては常に注意を払っており、あってはならない事であると認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、ご家族の相談等に答えることができるよう、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ、十分理解いただけるよう説明に努めている。改定等の際には全ご家族の同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けると共に、意見箱を設置し気軽に要望・意見が出せるようにしている。また、直接意向を伝えていただけるよう、通信等でも働き掛けている。	苦情相談の窓口として第三者委員の協力も得られ、家族に伝え掲示している。家族からの要望、意見は少ないが、毎日の入浴支援や外出、居室でのおやつについて要望、質問がありその都度職員と話し合い反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面接や、カンファレンスなどの場において意見や提案をしている。	1ヶ月毎、ユニット交互で全員による会議を実施し情報の周知、意見、提案の場としている。尿が出難い方も夜横になることや歩くことで出易かったり、リハビリパンツから布パンツへの切り替え時期等を提案実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談を実施し、その中で出された要望に関しては実現に向けて前向きに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、日常的に学ぶ事を奨励し、研修会などに参加する機会を設けている。職員の資格取得に対しても積極的に協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修の機会を活かし、交流をすすめている。また、GH協議会に加入し職員が研修し、その中で交流を深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居まもなくは不安が大きいため、関わる機会を多く設け、全職員が意識して一日も早く安定を得られるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より話を伺う場を定め、ご家族の状況の理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの段階で、どんなサービスがよりベターであるかを、話し合うようにしている。決定する前の情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意な分野での力を発揮していただく場面を設け職員は、感謝する気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活歴や情報を全職員が共有し、ご本人と家族の橋渡しをする思いをもって接している。一方的な支援にならないように支え合う関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙、来訪などの機会を大切にし、これまでの交流が継続できるよう支援している。	入居者家族によるギター伴奏での合唱や演奏等定期的な開催は喜ばれており、地域の人々との交流の機会も作ろうとしている。介護相談員の訪問日には談笑の時間を過ごし、商店に職員と買い物に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なごやかな関係が築けるよう話しかけをしたり、場を共有するなど、適宜職員も介入しながら雰囲気づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院や施設に移られた場合には、その後の相談を受けたり訪ねるようにしている。また、ターミナルを迎えた方のご家族に対しても、求められれば相談、支援など積極的に関わっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や、表情などから思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、かつ記録し職員が共有できるようにしている。意思の疎通が困難な方については家族から情報を得よう努めている。	職員は入居者が発する言葉と思いが逆であることも経験上知っており、表情や仕草も併せて思いの把握に努め、できることはその実現の為に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスなどで、情報を提供しあいながらご家族との会話の中から情報を得たり把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人にとって、心地よい生活となるよう日々の様子を記録し職員間で申し送りなどを行い現状の把握と情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族が、ケア会議に参加することは難しくなってきたが、日々のご本人の様子やご家族との会話から情報を集め、ケアマネージャーとスタッフが中心となってモニタリングをし作成している。	本人の現状に合わせた介護計画作成の為に、担当者が毎月家族へ便りを送付し、併せて希望も聞いている。プランへの希望は少なく、本人の様子や状態を見てマッサージや口腔ケアの実施をプランに組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化を見逃すことがないよう情報の共有をはかるため、記録は欠かず事無く残しそれを参考にしながら実践、介護計画の見直しが行なわれている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の、その時々々の要望を実現できるように柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の行事や、高野原ほっとサロンなどの地域行事に積極的に参加交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やそのご家族が希望するかかりつけ医の往診を受けている。また、ご本人の心身の状態の変化に応じた医療機関に受診できるよう支援している。	歯科、内科往診、リハビリマッサージ訪問等、家族との連携による医療面での支援が手厚い。変化のある場合は医師、看護師の指示を得ている。居室で点滴の様子も見られた。本人に負担の少ない体制作りである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に関係なく、体調の変化については電話等で伝え、即時に指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には職員管理者等が必ず同行している。ご本人の状態を的確に伝え、また早期に日常生活に戻れるよう入院中にも情報の収集、提供につとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況が変化する節目毎に医師、ご家族、管理者が話し合う場を設け方針の確認を行っている。	グループホーム開設時から重度化、終末期に向けた支援について、職員、家族、医療との連携が図られ実践もしている。段階毎の意思確認、同意書の作成もされており、経験も経て職員の対応への不安は少ない。重度者への支援は訪問調査時にも見られた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時などにおいて、外部の講師を招いたり救命救急の講習を受けるなどして学習し、実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に対応できるように、年2回避難訓練を行っている。また、地域の老人クラブの方々にも訓練への参加を呼びかけている。	火災、地震等災害時のマニュアルを作成した。避難訓練は夜間想定で火元を変え、課題をもって実施に取り組んでいる。また、期待事項だった地域住民の協力も運営推進会議を通して老人会の参加が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にこころがけている。〇〇さんと名前と呼びかけるよう統一し、例えば入浴などの場合でも本人の意思を尊重し、変更するなど臨機応変に対応している。	おしぼりや新聞をたたむ等、できることをやってもらうにしても他者との比較で傷つかないよう一人ひとりをお願いしている、洗濯物を干す、たたむ等もひとりずつ行っている。本人の意思を確認し常に相談、話し合う体制がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をこころがけ、様子を見るなどして思いの把握に努め、希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、睡眠や入浴など本人の生活のペースに合わせて支援するようこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みに合わせて、清潔を心掛けながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備、食後の後片付けなどを一緒にやっている。又、職員も一緒に食し歓談しながら食事の支援を行っている。誕生日や敬老会、クリスマスなどには入居者の希望を取り入れたりしている。	各テーブル毎職員は必要なサポートを行っており、笑い声がある明るい食事風景である。担当職員がメニューを作成し、両ユニットで同じ物を食べている。誕生日や行事で希望を聞いて赤飯やおはぎ等を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材のバランスを考え、献立を工夫し好みのメニューも取り入れている。1日6回以上、水分を摂る機会を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝は食事前、夜は食事後、口腔ケアを行っている。昼食後は、必要な方にうがいなどの口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの行動や動きを見て、状況を判断し声がけやトイレでの排泄の支援を行っている。	記録による間隔を参考に本人の意思を確認しトイレ誘導を実施している。そわそわと落ち着かない、食べ物に手が出ない等のサインも見逃さず、夜間はパット交換、トイレ誘導等その人に合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や、飲料物の工夫をこころがけ便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望する日、希望する時間に入浴できるようにしている。体調の優れない方については清拭、足浴などで対応している。衛生面では、一人の入浴が終わるごとに脱水、清掃、消毒を行っている。	入浴を拒否する方でも浴槽に入るのが怖かったり、自分の洋服が盗られると思い込んでいたりしている等理由はあるので、シャワーで対応したり衛生面での配慮は欠かさず行っており、無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望により、休息したり、気温、湿度に留意しながら気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者から情報を得て、誰がみてもわかるように表示し記録している。個々の薬箱に薬名、数量、効能を記し把握に努めている。薬の変更があった場合は様子観察、報告を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事やボランティアによる支援をいただいたり、外部の行事に参加したりして気分転換をしてもらっている。また、日常では、その方にあった家事をお任せしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じてドライブに出掛けたり、本人や家族の希望により観劇などを楽しんでいたっている。	前年度の外部評価で出たがらない方への工夫を期待したが、運営推進会議でも報告検討し、先ず外出を体験してもらおう等している。車椅子の方でも立位が保てるようであれば出掛けている。天気が良ければ近隣や庭内の散歩は毎日である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の認識がない状態での入所が多く、認知度が進んで本人の自己管理ができない人がほとんどであり支援が難しくなってきた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやりとりができるように支援している。電話での交流も大切と考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に置物や、壁掛けなどで季節感を表すよう工夫している。又、入居者の家族から毎月、季節を感じさせる大きな壁掛けを提供されている。	事務室の両側にA、Bユニットがあり、明るく広いリビングがある。季節になれば窓からは梅、藤、あけびなどの花が眺められ、食堂、浴室、トイレ、洗面台は家庭的な馴染みのものである。お正月飾り、お雛様、兜など季節毎の飾り付けが入居者を喜ばせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を換えたり、コーナーに長椅子を置くなどソファの位置を工夫し、和やかに過ごせるように心掛けている。また隣のユニットの方との交流も心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、なじみのものを持ってきていただくようご家族に働き掛けている。タンス、仏壇、TVなどを置いている。	体力機能の低下で転倒し易くなっている方もおり、居室内は空間を広くとっている。リビングで過ごす時間が比較的多いが、時計、カレンダー、家族写真を飾り落ち着ける設えとしている。清潔で明るい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間のフットライト使用やすべり止め用クツ下の使用、手すり等、わかりやすいよう場所の表示をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475102307		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホーム高野原	ユニット名	B棟
所在地	仙台市青葉区高野原4丁目12-29		
自己評価作成日	平成23年 2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が、毎日安心して笑顔で暮らせるよう支援サポートしています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(有)さくらの運営であり2006年の開設である。最寄のバス停から徒歩3分で駐車場も広い。法人として設立当初からサービス業であるとの認識をもち、新人研修に当たっても職員一人ひとりに意識づけている。「その人らしく尊厳のある生活の提供、地域に根ざし人々と共に楽しく安らぎのある生活への支援…」を理念とし入居者家族、地域の人々と連携、協力し入居者一人ひとりにとって落ち着いた暮らせる第2のホームとなるように支援している。特に「重度化、」「看取り」での支援は開設時から行っており医療との連携も得て実績を重ね、職員の不安も少ない。入居者、家族をサポートしパイプ役として絆を深めたいと管理者は話してくれた。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年3月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム さくら高野原** )「ユニット名 **B棟** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に地域密着を取り入れた。地域の活動には積極的に参加している。	開設時「その人らしく尊厳のある生活の提供」を全員で作成した。毎年検討を重ね21年度には「地域に根ざし、地域の人々と共に…」を付加している。幸せはそれぞれ違う事を共有し日々のケアを振り返り支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる「ホットサロン」小学校の「運動会」「学習発表会」等に招待いただいた場合には積極的に参加している。	町内会行事の「ホットサロン」での作品づくりや触れ合いフェスティバルにも出掛けている。実習生の受け入れや小学生の体験受け入れ、老人会による施設見学の後は継続して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会や避難訓練に招待し交流を図っている。地域の小学校の「子供を守ろうデー」には旗を外に出し「子供110番」に登録している。地域の高齢者からの相談、問い合わせには真摯に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、町内会の代表の方、民生委員や地域包括支援センターの職員の皆様にお集まりいただき状況報告や意見、要望を聞いている。	会議を年6回開催し、包括支援センターからも毎回参加している。ブルーベリー摘み、ジャガイモ掘り等に誘われたり、支援センター職員から入居者見守りでの「飲料」「新聞配達」との連携提案なども検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や質問等あった時には連絡し、常に早目の問題解決に職員全員心掛けている。	監査指導が年に1回あり重要事項説明書の壁面への掲示も指導された。介護相談員も毎月受け入れ入居者との交歓も見られる。管理者は「キャラバンメート」として講師依頼があり、地域への啓蒙、相談に応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、カンファレンスで報告し情報を共有し、常に全ての職員で話し合いを行っている。	「身体拘束はしない」を共有し車椅子使用時のずり落ちも職員はマット等で工夫している。研修の機会を逃さず参加し、その後全員で共有している。外出の気配を見逃さず、出る前に玄関先で「お帰りのさい」と声掛けする事で落ち付くこともあると職員は話していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待防止に努めている。研修会に参加し、その報告を全ての職員で共有し学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多くの職員は権利擁護の研修に参加しカンファレンスを通し、職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間を要しても全て説明し、納得の上ご署名いただいている。改定の際は、全員の了解をいただいた上で実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けると共に意見箱を設置し、気軽に要望、意見が出せるようにしている。直接意向を伝えていただけるよう通信等でも働きかけている。	苦情相談の窓口として第三者委員の協力も得られ、家族に伝え掲示している。家族からの要望、意見は少ないが、毎日の入浴支援や外出、居室でのおやつについて要望、質問がありその都度職員と話し合い反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談やカンファレンスなどの場において意見などを提案している。	1ヶ月毎、ユニット交互で全員による会議を実施し情報の周知、意見、提案の場としている。尿が出難い方も夜横になることや歩くことで出易かったり、リハビリパンツから布パンツへの切り替え時期等を提案実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている	定期的な個別面談を実施し、その中で出された要望に関しては実現に向けて前向きに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が日常的に学ぶことを奨励し研修会などにも参加する機会を設けている。職員の資格取得への奨励を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修や各種行事にも参加している。外部のグループホームの職員や新設のホームの職員の研修を受け入れている。研修に行くなど交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の立場になり考え、目線を同じ高さにし入居者様の話をよりそって聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より話を伺う場を設け、御家族様の状況の理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの段階で、どんなサービスがより良いかを話し合うようにしている。決定する前の情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な分野で力を発揮していただく場面を設け、職員には感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の生活歴や情報を全職員が共有し、ご本人と家族の橋渡しをする思いをもって接している。一方的な支援にならないような関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙、来訪などを大切にし交流が継続できるように支援を行っている。	入居者家族によるギター伴奏での合唱や演奏等定期的な開催は喜ばれており、地域の人々との交流の機会も作ろうとしている。介護相談員の訪問日には談笑の時間を過ごし、商店に職員と買い物に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話と一緒に入り、入居者様同士が会話できるように支援していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院や施設に移られた場合には、その後の相談を受けたり、訪ねるようにしている。また、ターミナルを迎えた方のご家族に対しても求められれば、相談支援など積極的に関わっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、会話や表情などから一人ひとりの希望、意向を把握に努め介護記録等、職員が支援できるようにしている。また、家族からの情報を得るよう努めている。	職員は入居者が発する言葉と思いが逆であることも経験上知っており、表情や仕草も併せて思いの把握に努め、できることはその実現の為に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との会話の中から情報を得たり、カンファレンスなどで情報を提供し合い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人にとって、心地よい生活ができるよう日々の様子を記録し、職員間で現状の把握と情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族がケア会議に参加することは難しいが、日々のご本人の様子やご家族の会話などから情報を集めケアマネージャーとスタッフが中心となってモニタリングをし作成している。	本人の現状に合わせた介護計画作成の為に、担当者が毎月家族へ便りを送付し、併せて希望も聞いている。プランへの希望は少なく、本人の様子や状態を見てマッサージや口腔ケアの実施をプランに組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化を見逃すことのないよう情報の共有をはかるため、個別の介護記録を欠かさず残しながら実践し、介護計画の見直しがなされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のその時々要望を実現できるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の行事や、町内会の行事、地域の行事に参加、交流するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医の往診や、また、ご本人の心身の状態の変化に対応した医療機関に受診できるよう支援している。	歯科、内科往診、リハビリマッサージ訪問等、家族との連携による医療面での支援が手厚い。変化のある場合は医師、看護師の指示を得ている。居室で点滴の様子も見られた。本人に負担の少ない体制作りである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に関係なく、体調の変化については、電話等で即時に伝え指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、職員、管理者等が必ず同行している。ご本人の状態を的確に伝え、また、早期に日常生活に戻るよう入院中にも情報の収集、提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況が変化する節目毎に、医師、ご家族、管理者が話し合う場を設け方針の確認を行っている。	グループホーム開設時から重度化、終末期に向けた支援について、職員、家族、医療との連携が図られ実践もしている。段階毎の意思確認、同意書の作成もされており、経験も経て職員の対応への不安は少ない。重度者への支援は訪問調査時にも見られた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命救急の講習を定期的に受け学習し実践につなげる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。また、地域の老人クラブの方々にも訓練への参加を呼びかけている。	火災、地震等災害時のマニュアルを作成した。避難訓練は夜間想定で火元を変え、課題をもって実施に取り組んでいる。また、期待事項だった地域住民の協力も運営推進会議を通して老人会の参加が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、就寝の際は入居者様のプライバシーを尊重した、介助、見守りを行うようにしている。	おしぼりや新聞をたたむ等、できることをやっ てもらいにしても他者との比較で傷つかない ように一人ひとりをお願いしている、洗濯物 を干す、たたむ等もひとりずつ行っている。本 人の意思を確認し常に相談、話し合う体制が ある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話を心掛け様子をみるなど して、思いの把握に努め希望に添えるよう に職員全員が支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	食事睡眠や入浴など本人の生活のペース に合わせて支援できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	入浴時や出掛ける際に、入居者様に声をかけ 一緒に洋服を選んで、入居者様の好みのお しゃれができるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	お盆並べをしていただいたり、茶碗を拭いて いただいたり入居者様と職員と一緒に 行っている。	各テーブル毎職員は必要なサポートを行って おり、笑い声がある明るい食事風景である。 担当職員がメニューを作成し、両ユニットで 同じ物を食べている。誕生日や行事で希望 を聞いて赤飯やおはぎ等を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	水分摂取が難しい入居者様には、声をかけ ながら水分摂取をしていただくようになっ ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食事の後、口腔ケアを行っている。昼食後 は必要な方にうがいなど声かけを行い口腔 ケアをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの入居者様に合わせ、声がけを行いトイレ誘導を行ったりしている。	記録による間隔を参考に本人の意思を確認しトイレ誘導を実施している。そわそわと落ち着かない、食べ物に手が出ない等のサインも見逃さず、夜間はパット交換、トイレ誘導等その人に合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や飲食物の工夫をこころがけながら日々の体調を確認し便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の入浴したい日、希望する時間で入浴できるようにしている。体調の優れない方については、清拭などを行っている。	入浴を拒否する方でも浴槽に入るのが怖かったり、自分の洋服が盗られると思い込んでいたりする等理由はあるので、シャワーで対応したり衛生面での配慮は欠かさず行っており、無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の希望により、休息したり気温などに配慮しながら気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更などがあった場合、薬箱に一人ひとりの薬の名前を書いたりし変化を確認したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やボランティアによる支援をいただいたり、外部の行事に参加したりして気分転換をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温を見て、また入居者様の体調に合わせて近場へのドライブや行事でドライブへ出掛けるようにし季節を肌で感じていただくようにしている。	前年度の外部評価で出たがらない方への工夫を期待したが、運営推進会議でも報告検討し、先ず外出を体験してもらおう等している。車椅子の方でも立位が保てるようであれば出掛けている。天気が良ければ近隣や庭内の散歩は毎日である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の認識のない状態での、入所が多く認知度が進んで本人の自己管理が出来ない人がほとんどであるため、支援が難しくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙のやりとりができるように支援している。電話での交流も大切と考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、置物や飾り付けなどで季節感を表すように工夫している。	事務室の両側にA、Bユニットがあり、明るく広いリビングがある。季節になれば窓からは梅、藤、あけびなどの花が眺められ、食堂、浴室、トイレ、洗面台は家庭的な馴染みのものである。お正月飾り、お雛様、兜など季節毎の飾り付けが入居者を喜ばせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、お茶の時間は、席を決めている。その他は一人にならないように職員が気をくばり大勢で談話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使用しやすい場所に使い慣れたものを置いていただいたりしている。	体力機能の低下で転倒し易くなっている方もおり、居室内は空間を広くとっている。リビングで過ごす時間が比較的多いが、時計、カレンダー、家族写真を飾り落ち着ける設えとしている。清潔で明るい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置やわかりやすい場所の表示、トイレ等の場合は誘導を行って安全に歩行していただいている。		